第１回中地区検討部会　概要

日時：令和元年 10 月 29 日（火）14：00～16：00　　場所：泉佐野丘陵緑地　パークセンター

◆会議参加者（敬称略）

【運営審議会委員】

増田（大阪府立大学　特認教授）、前中（元大阪府立大学大学院　教授）、

那須、久住、大家（泉佐野丘陵緑地パーククラブ）

【泉佐野丘陵緑地パーククラブ】　３名

【大阪府（事務局）】　４名

◆議題

①ゾーニングについて

②公園の管理と活性化について

③来年度の他公園の視察について

④中地区検討部会について

⑤その他

◆内容

①ゾーニングについて

【水辺の広場ビオトープ（湿地）実験地の植生調査について】

・草刈りを行う前に植生調査を実施した。また、周辺の樹木も併せて調査した。狭い範囲であるが、種類は意外と多かった。今後一般の人を対象に観察会や整備活動も一緒にできればしたいと考えている。

・湿地の水は自然の雨水を想定している。湿地がどう移り変わっていくかその変化を見ていきたい。

・杭を打って定点観測で写真を撮れば貴重なデータとなる。

・A4 サイズの平面図に簡単な植生のスケッチをしておくと面白い。2 年ぐらいで植生は定まってくると思う。名前がわからないものは、標本を作れば後からでも確認できる。ただし、その時は、「いつ、だれが、どこで」この 3 つを必ず記載すること。これにより作った標本は、貴重な証拠となる。

【向井池半島の植生調査結果について】

・10 月 6 日のパーククラブ全体活動日に午後から半島の植生調査を実施した。3 班に分かれて実施したが各班 1 段するのが精いっぱいだった。棚田跡であるため平面部は樹木が少なかった。また、柿木が多かった。今回の調査でいろいろな木があることがわかり、木を覚える機会にもなった。

・樹高計の先に白い布をつけて伸ばすと対岸から見えるので伐採等の対象となる木がどの木か対岸から確認して景観の検討ができる。

・スマホの GPS を利用して、グーグルマップに落とすことも今では簡単にできる。

・半島にある花木は、ムラサキシキブ、ツツジ、ツバキ、サクラが見られた。

・クロバイの花も春きれいである。
・データをいろいろと収集していくと考える材料が増えて面白くなる。

②公園の管理と活性化について

・ガイドウォークはしてほしい。ガイドウォークルートを作るなどして案内したらよい。
・郷の館までは弁当をもって利用されているが、水辺広場まではあまり行かない。
・郷の館より先に入る利用者は、カメラマンや常連の散歩などのリピーターが主である。
・公園のポイントをまとめて説明してもいいし、「クスノキの香りをかいで探しましょう」「どの木のどんぐりかな」などポイントを絞って案内するなど、いろいろと考えられる。ただし、説明する話術が重要である。見どころマップを作る方法もある。
・水辺広場のきれいな写真をパークセンターなどで紹介する方法もある。特に遊んでいる写真や花など一般から募集してコンテストをするのも盛り上がる。今では、スマホから投稿してもらう方法もあり、印刷して送付ではないので気軽に参加できるので事務局で集めて審査をして賞を出すなどできれば人気が広がるのではないか。
・一般から募集する前にパーククラブの撮影した写真を持ち寄り選定してもよい。
・グーグルマップに写真を投稿できるのでたくさん載せるとアピールできるのではないか。
・JCOM の取材で放送された番組を流すことができれば面白い。条件はあるが調整すれば可能になるはず。
・QR コードを活用した案内板の設置については、例えば、農小屋、畑、果樹園などについてなどガイドをするうえでも役にたつと考えている。
・ササユリガイドやミステリーゾーンの案内などパーククラブも実施している。
・自分のチームの活動だけしかわからなくなってしまうので、案内ガイドをすることは公園の全体を把握する重要なきっかけとなる。
・案内ガイドが面白いものになるかは、説明する話術次第。
・クイズ形式やウォークラリー形式の仕掛けをつくると楽しく案内できるかもしれない。
・整備とソフトがうまく連携することが必要である。
・活動のビフォーアフターの写真を撮っておくことは大切である。QR コードとの連携もできる。
・パーククラブから説明してほしいポイントを募集して説明板を作る参考にしてはどうか。
・一般の人にはビフォーアフターはあまり興味がない。環境学習やプログラム参加者や視察等の説明には役に立つ。
・この公園のウリは目的を持った利用である。フラッと立ち寄ることは少ない。この公園の特性は、自然と触れ合える楽しい公園であって、遊んで楽しむ公園ではない。つくりすぎていないことが気持ちよく利用できる。ウリがないというわけではないが、何もないのがウリでもある。里山のような森には通常は民有地で入ることができないが、この公園では入っていけるため大切である。
・年間 5 万人の利用は少なくない。そもそも年間何百万人も呼ぶような公園ではない。評価は、「関わった人数×作業」のように「どれだけの人が何をしたか」をポイントとする方法などを考えてほしい。公園利用者の人数ではない。

・箕面では以前昔ながらの「メンギョウ」と「マンドロ」を地域と連携して再生した。メンギョウは物見遊山に行く村の行事でマンドロは彼岸の送り火（火祭り）である。丘陵の山桜も昔は集落の物見遊山の行事として使われていたのかもしれない。
・竹灯籠を作るのもおもしろいのではないか。
・泉佐野丘陵緑地の名前を聞いても公園と連想しない人がいる。泉佐野丘陵緑地公園のように公園を付けると公園を認知してもらいやすいのではないか。
・イベント参加者以外もイベントを見学してもらえるようにしたらよいのではないか。
・ふれあいの森公園ではガイドの要望が多い。ガイドの専門職員や作業中でも手を止めて簡単な説明や話しかけて紹介ができる体制づくりや意識改革ができるとよい。植物工場では 1 か月半をかけてガイドができるようにして 2 か月目からはガイドを実践している。
・リーディング区域の活性化については、郷の棚田の段々畑があれている、郷の棚田の奥の植栽の魅力が少ない。パークセンターまでの道路に日影がないので考えてほしい。
・リーディング区域の土質は粘性土で木が育ちにくい。大きく成長させるには大規模な土壌改良が必要となり、予算の確保の面で非常に難しい。
・郷の棚田の草刈りの時期を一斉に行っているのをずらしてほしい。段階的に行ってはどうか。
・自由に議論して時期は調整すればよいのではないか。
・難しいとは思うが、生き物の関係する部分は臨機応変に対応できる仕組みを考えられないか。

③来年度の他公園の視察について

・研修の参加は一人より複数のほうが良いのではないか。
・来年度は、団体での視察をやめて、試験的に実施してはどうか。
・クラブは 10 年前から先進事例の視察を継続しており、主なところは視察したのでちょうど来年度の団体視察は見送ろうと考えていたところである。
・補助は、日当ではなく、宿泊費は含まないのは当然である。
・ガソリン代については、柔軟に考えて、距離×燃費（例えばリッター10KM と規定するなど）の方法で補助したほうが良い。起点は丘陵緑地としてグーグルなどで行き先の最短ルートなどで計算するなどの方法を検討してほしい。
・金額の上限が今までの団体視察の予算（約 15 万円）の範囲で柔軟に考えてはどうか。まず来年度から施行をしてその結果を受けて見直せばよいのではないか。

⑤その他

・次回中地区検討部会について 12 月 12 日（木）14 時～16 時で調整する。

以上